

## 論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	脳神経科学領域 精神・神経分子科学教育研究分野 氏名 吉澤 佳織
指導教授氏名	中村 和彦
論文審査担当者	主 査 加藤博之 副 査 東海林幹夫 副 査 若林孝一
(論文題目) Relationship between occupational stress and depression among psychiatric nurses in Japan. (精神科看護師の職業性ストレスと抑うつ症状の関連について)	
(論文審査の要旨) 900 字程度 本研究は、精神科看護師の抑うつ状態の罹患率ならびに抑うつ状態と関連する因子について調査したものである。研究方法は 7 つの医療機関(単科精神科病院 3、総合病院 4)に勤務する 238 人の精神科看護師を対象に、自己記入式のアンケートを施行した。抑うつ状態の評価には疫学的抑うつ尺度(CES-D)の日本語版を使用し、Wada らの報告(Am J Ind Med. 2007;50:8-12.)に基づいて 19 点以上を抑うつ症状の有無についてカットオフ値とし、Probable depression と判定した。健康習慣については、森本らにより提唱された自己記入質問票において評価を行い、生活習慣指数(HPI)を算出した。職業性ストレスについては、米国労働安全研究所(NIOSH)が開発した General Job Stress Questionnaire(GJSQ) と職業的危険に関する 4 項目の質問を用いた。職業性ストレスの各項目の得点について 3 分位に分けて、それらと抑うつ症状の有無について、ロジスティック回帰分析で検定を実施した。その結果、Probable depression(CES-D $\geq$ 19)の罹患率は男性 36.4% (24/66)、女性 37.2% (64/172) (性差なし $p>0.05$ )であった。ロジスティック回帰分析により年齢、性別、生活習慣、家族構成、勤続年数を共変量に解析を行ったところ、抑うつ状態の有無について、仕事の量的負荷がリスクを高め、仕事のコントロールと上司によるサポートがリスクを低くすることが明らかとなった。本研究の結果は、本邦の精神科看護師においても、仕事のコントロール、上司からのソーシャル・サポートや仕事量の管理が、また、健康的な生活習慣が抑うつ症状の発生と関連することを示唆している。 本研究は、我が国の精神科看護師の抑うつ症状の発生に対し、促進的に作用する因子ならびに抑制的に作用する因子について明らかにした初の研究である。今後の我が国の精神科診療体制の充実に向け縦断的研究への道を拓くことに大きく寄与する内容であり、学位授与に値すると思われる。	
公表雑誌等名	Arch Environ Occup Health. In press